

学位論文審査結果の要旨

博士課程 ①・乙	第 82 号	氏 名	酒田 拓也
審 査 委 員		主 査 氏 名	中村 都英
		副 査 氏 名	星田 嘉弘
		副 査 氏 名	三澤 尚明
<p>【論文題名】</p> <p>Development of an “Alert Framework” Based on the Practices in the MedicalFront 医療現場の実践知に基づくアラートフレームワークの開発 (Journal of Medical Systems, 42:114,2018) https://doi.org/10.1007/s10916-018-0967-9</p> <p>【要 旨】</p> <p>【目的】アラートシステムを電子カルテに搭載可能にするアラートフレームワークを構築するとともに、知識のモデリング手法を明らかにする。</p> <p>【対象と方法】予備的にアラートのフレームワークを作成した。これを宮崎大学医学部附属病院で働く多職種職員に提示し、自由討論形式でインタビューを行った。インタビューの内容は、対象者に対してそれぞれの部署に必要なアラートメッセージを聞き出すことや提示したフレームワークにおいて不足する情報を聴取した。このヒアリングの結果を基に、より精細なアラートフレームワークを作成した。</p> <p>【結果】基本的なフレームワークの構造として If-Then 形式を用いた。前件部ではアラートの発火に必要な患者抽出条件を設定可能とし、後件部ではアラートメッセージの後に処理すべき診療内容を設定可能とした。それによりシステムの構造として (1)ヘッダー部、(2)前件部、(3)後件部、(4)メッセージ部に設定された。これにより電子カルテに実装が容易なシステムが開発できた。また、ヒアリングで得られた実践知の分析から、求められるアラートにはリスク発生要因として患者状態、医療行為、患者状態と医療行為の両者、医療行為の連続性の欠如の4パターンを明らかにすることができた。これら4パターンに対応するためにフレームワークで患者抽出条件に複数の条件設定可能なように配慮することも重要であった。</p> <p>インタビュー形式から必要なアラートメッセージを抽出し、電子カルテ搭載可能なフレームワークを作成する手法が有用であることを証明した論文である。</p>			